

SCHEDULE

東京都写真美術館展覧会スケジュール

2008	3F展示室	2F展示室	B1F映像展示室	1Fホール
3	 ウンボ・スリッパ 1927-30年 シュルレアリスムと写真 一攫する美— 3月15日(土)~5月6日(火・祝)	 「スキャン」より 1957-59年 ©Giacomelli estates 知られざる鬼才 マリオ・ジャコモメリ展 3月15日(土)~5月6日(火・祝)	 百年の時を経て、今初めて明かされる 中国皇宮最後の姿 紫禁城写真展 3月29日(土)~5月18日(日)	 アーニー・リー・ボヴィッツ レンズの向こうの人生 3月15日(土)~4月4日(金)
4				 ファヴェーラの丘 4月5日(土)~ モーニング・ロードショー パレ・エリュス 踊る飲む生きる飲む 4月5日(土)~
5	 ニューヨーク・シティ— 1971年 森山大道展 I. トロスベクティヴ 1965-2005 5月13日(火)~6月29日(日)	 ハワイ 2007年 森山大道展 II. ハワイ 5月13日(火)~6月29日(日)	第33回IPS展 日本写真家協会 5月24日(土)~6月8日(日)	
6			 世界報道写真展2008 6月14日(土)~8月10日(日)	1000の言葉よりも 報道写真家ジブ・コーレン 6月上映予定
7	 ヴィジョンズ・オブ・アメリカ (後編) 第1部「19世紀から1910年代」 7月5日(土)~8月24日(日)	 ラフレシアの内部 インドネシア 1989年 今森光彦写真展 昆虫 4億年の旅 7月5日(土)~8月17日(日)		
8				
9	 ヴィジョンズ・オブ・アメリカ (後編) 第2部「1920年代から1950年代」 8月30日(土)~10月19日(日)	 スティール/モーション 液晶絵画展 Still/Motion 8月23日(土)~10月13日(月・祝) ジュリアン・オビー 《イブニング・ドレスの女》 2005年		

※スケジュール・展覧会タイトル等は予告なく変更される場合があります。最新の情報はホームページをご覧ください。

ご利用案内

●休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合、その翌日)、2008年3月2日および3月4~7日、年末年始
●開館時間：10:00~18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで

割引チケットの販売

お得な割引料金で2会場以上を自由に組み合わせてご覧いただける割引チケットを販売しております。詳しくはチケット売り場でおたずねください。



JR恵比寿駅東口より徒歩約7分※当館には専用駐車場はありません。恵比寿ガーデンプレイスの駐車場を御利用ください。

※本誌編集ページに掲載されている観覧料および商品の価格は、原則として消費税込みの価格です。
東京都写真美術館ニュース「アイズ08」57号 ●発行日:2008年2月29日 / 企画・編集:東京都写真美術館事業企画課 普及係 ●印刷・製本:JTB印刷株式会社
●発行:財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ©2008 ●本誌掲載の記事、写真の無断複写、複製を禁じます。



eyes
2008 Vol.57
TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY NEWS MAGAZINE



ハワイ 2007年

Topics
Moriyama Daido

森山大道展

I. レトロスペクティヴ 1965-2005 / II. ハワイ

現代日本を代表する写真家、森山大道。今回は5月に2階・3階展示室で開催される「森山大道展」にむけて、2004年から3年の歳月を費やして制作した、最新作『ハワイ』の撮影秘話のほか、1960年代のデビュー当時から今日までの足跡を追う回顧展「レトロスペクティヴ 1965-2005」についてお話を伺いました。

どうしてハワイを撮ったのかとよく聞かれますが、『ハワイ』に関しては、撮影する意図というのはほとんどなかったんです。ただ、以前からずっと僕の気持ちの中にハワイってものがあつたんです。

その理由自体は、結局いまだによくわからない謎なんです。時間が経つにつれ、1度、撮ってみたい場所だなあという風にイメージが膨らんでいったことは確かです。

僕は昭和13年生まれですから、小学生の頃というのは戦後真っ只中の世代なんです。もう嫌ってうほどハワイを舞台にした映画や歌謡曲があって、メディアを通じてハワイが記憶されていたんです。観光ガイドやアメリカの映画で描かれるハワイは、たいいてい鮮やかなブルーだったりグリーンだったり…。スクリーンやブラウン管を通じて観

るハワイのイメージはどんどん膨らむんだけど、でも、僕の中かのハワイは圧倒的にモノクロでした。僕の場合、子供の頃からの記憶っていうのは基本的にモノクロなんです。だから、この作品にテーマがあるとしたら、唯一、「モノクロで

森山 大道 (もりやま だいで) 商業デザイナーを経て、1963年にフリーの写真家となる。67年『にっぽん劇場』で日本写真批評家協会新人賞受賞。99年サンフランシスコ近代美術館、2003年カルティエ現代美術財団で開催するなど海外でも幅広く活躍している。04年ドイツ写真協会 文化功労賞受賞。



展覧会担当の同僚友子学芸員と談笑する森山大道氏

インタビュー・構成 / 東京都写真美術館 表紙: ハワイ 2007年

ハワイが撮りたい」ということでしょうか。なんとなく、「今撮らなければ、きっと一生撮らないだろう」そんなふうにして、ハワイに行ったんです。

懐かしさの源にあるもの、それは子どもの頃に描いた
まだ見ぬハワイの記憶、戦後の記憶、そして細胞の
中から溢れ出る始原の記憶

モノクロームのハワイを撮ろうと決めた段階で、すでに僕の中の勝手なイメージは出来上がっていました。それは「ハワイで熱海を撮ってみよう」ということ。カラーで色々撮られた写真集なんかもいろいろあるけれど、それは僕が撮る必要がないから。

僕の中のハワイに対する勝手なイメージは熱海に代表されるような、一種のぬるさなんです。温泉地の如何わしさとか、そういう雰囲気がハワイでも撮れるかなと期待して行ったんですけど、ちょっと裏切られました。もうちょっと歓楽街的なところがあるかと思っていたんですが、店も早く終わってしまう人もいなかった(苦笑)。

比較的、熱海感があるのは、夕暮れの坂道、ヘッドライトをぼんやり点した車が上がってくる写真でしょう。ホノルルの夕方っていうのは、こんなふうになんか色っぽい生ぬるさがあるんですね。

それから、ハワイにはやっぱり島独特の暗がりっていうのもある。移民の島、ヒロに着いたときは、いつか目にしたことがある既視感というより、大昔、ここに居たぞという、全く

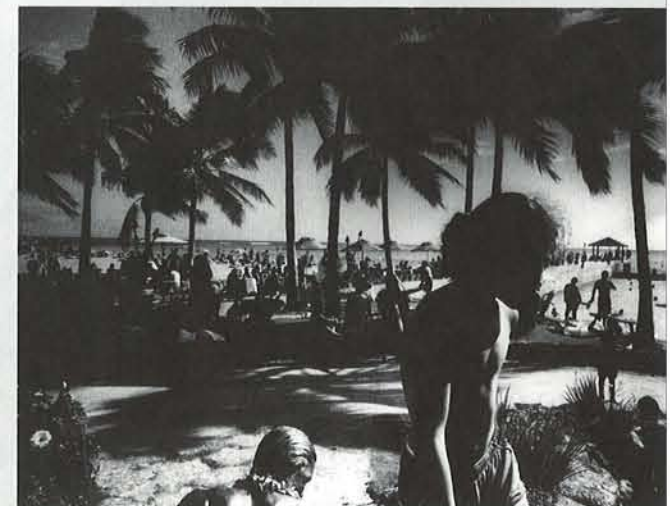


ハワイ 2007年

いいしれぬ懐かしい感覚に包まれました。まるで体の細胞の網目からにじみ出てくるような奇妙な懐かしさに。やっぱり、僕がハワイを撮る一番の根っこには日本があると思うんです。だけど、ストレートに日本人の移民がこの島にやってきたことと繋げて撮りたいわけではない。ただ、そこにいざなう1本の記憶を辿っていった先に用意されていた場所、そんな気がしますね。



ハワイ 2007年



ハワイ 2007年



ハワイ 2007年

1960年代写真家としてデビュー。写真への問いを徹底的に突き詰めた末、写真から遠のいていった70年代後半、再び写真を撮る日々を取り戻す80年代。そして現在に続く森山大道の写真の軌跡。

東京都写真美術館に収蔵されている作品のうち、その大半は90年の開館時に収集されたものです。作品の選定は自分自身で行いました。スランプ時代の〈北海道〉の割合が多いのでは、ということですが、特に理由はありません。美術館に収めたい作品を自分なりに選んでいった結果、〈北海道〉が多くなったのかもしれませんが、「レトロスペクティヴ 1965-2005」ではこれまで比較的多く紹介されてきた60



光と影 1981年 東京都写真美術館蔵

森山大道論

「森山大道論」淡文社刊 本体価格2,400円(予価)
多彩な執筆による論評に加え、美術館で一般より公募した論文1編を掲載した森山大道論初の試み。
代表作品に加え、未発表作品の図版も多数掲載します。

森山大道連続対論

5月23日(金) 18:00-20:00
森山大道 × 大竹伸朗(美術家)
進行: 笠原美智子(東京都写真美術館学芸員)
5月24日(土) 18:00-20:00
森山大道 × 多木浩二(美術・写真評論家)
進行: 清水稔(同志社大学准教授)
5月30日(金) 18:00-20:00
森山大道 × 金平茂紀(TBSテレビ報道局長)
進行: 岡部友子(東京都写真美術館学芸員)
定員: 190名
参加方法: 当日10時より展覧会チケットをお持ちの方に整理券をお配りします。

フロアレクチャー

第2、4金曜日午後2時より、担当学芸員による展示解説をおこないます。

※詳細はホームページをご覧ください。

年代から80年代に加えて、90年代以降、特に2000年代の〈新宿〉や〈ブエノスアイレス〉もスペースを割いて紹介されます。始めて僕を知る人も含め、多くの人に見てもらえればうれしいですね。

「I.レトロスペクティヴ 1965-2005」では、僕がネガから選んだ未公開の作品も含めすべてゼラチンシルバープリントで展示します。僕が展示構成を考えた「II.ハワイ」では大型インクジェット・プリントも展示する予定です。展示で重要なのはインパクト。展示室に入った瞬間に強烈な印象を味わってみたいですね。

(インタビュー 2008年2月)



北海道 留萌 1978年 東京都写真美術館蔵

TOKYO METROPOLITAN MUSEUM OF PHOTOGRAPHY

I.友の会無料 II.友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

2・3F | 2・3階展示室
Exhibition Gallery

5月13日(火) ▶ 6月29日(日)

森山大道展

I.レトロスペクティヴ 1965-2005 II.ハワイ

□ 一般 1,100(880)円 □ 学生 900(720)円 □ 中高生・65歳以上 700(560)円

()は20名以上の団体料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

展覧会はフロアごとに鑑賞することもできます
I.レトロスペクティヴ1965-2005(3階展示室) □ 一般500(400)円/学生400(320)円/中高生・65歳以上 250(200)円
II.ハワイ(2階展示室) □ 一般800(640)円/学生700(560)円/中高生・65歳以上 600(480)円
()は20名以上の団体料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料
※東京都写真美術館友の会会員は「レトロスペクティヴ 1965-2005」は無料、「II.ハワイ」は上記割引料金でご覧いただけます

○主催: 東京都写真美術館、産経新聞社 ○特別協賛: カルティエ ○協賛: EPSON ○協力: タカ・インシイギャラリー
○協力: サンケイスポーツ/タカフジ/フジサンケイビジネスアイ/izal/SANKEI EXPRESS

※詳細ホームページ: <http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>



青山(「エロスあるいはエロスではないにか」)
1968年 東京都写真美術館蔵



ハワイ 2007年

このたび、東京都写真美術館では日本を代表する写真家・森山大道の個展「森山大道展 I.レトロスペクティヴ 1965-2005/II.ハワイ」を開催いたします。

商業デザイナーを経て、写真家・岩宮武二、細江英公に師事した森山大道が、フリーの写真家としてデビューしたのは、1963年のことでした。「アレ、ブレ、ボケ」と形容されるハイコントラストや粗粒子図面の荒々しい写真表現で60年〜70年代の日本の写真界に一石を投じ、常に「写真とは何か」を問い続けてきた森山の作品は、初期の代表作「にっぽん劇場写真帖」(68年)、写真への問いをラディカルに突き詰めた「写真よさよなら」(72年)、スランプからの再起となった「光と影」(82年)、最新作「ハワイ」

(07年)など、どれも注目を集めるものばかりです。そして、肌身離さず持ち歩いているコンパクトカメラは、一貫して路上から見える日常の断片をスナップショットとして収め、その力強い作品群から放たれる欲望、孤独、不安感を見る人の感情を大きく揺さぶります。

本展では、今日、世界的にも高い評価を受けている写真界の巨人・森山大道の「足跡」と「今」を2つの展覧会によって展開。「レトロスペクティヴ 1965-2005」では代表作に加え、未発表作を含む約150点を、最新作「ハワイ」では、神秘的な自然と人々の日常をモノクロームで捉えた、独自のハワイを一堂に公開。写真の根源を突き詰める森山の作品群を、思う存分にお楽しみいただける展覧会です。

3F

3階展示室
Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

3月15日(土) ▶ 5月6日(火祝)

シュルレアリスムと写真 けいれん 一痙攣する美

Surrealism and Photography BEAUTY CONVULSED

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料全
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料 ※ぐるっとバス利用可能

○主催：(財)東京都歴史文化財団 東京都写真美術館 ○助成：美術館連絡協議会

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

に存在する非現実の領域を表そうとしていたのではなく、現実の中に存在する、いわば強度の現実を捉えようとしたものでした。

その意味で写真は、シュルレアリスムという思想にもっとも近い場所に到達する可能性を秘めたメディアであったといえるでしょう。ダリやマグリットなどシュルレアリスムの絵画をテーマとする展覧会は、日本でも頻りに開催されるようになってきましたが、写真がシュルレアリスムに重要な役割を果たし、多くの傑作が生み出されていることはあまりよく知られていません。今回の展覧会ではマン・レイやハンス・ベルメールほか、日本の表現者たちの作品も紹介し、この芸術運動に新たな視野から迫ります。

シュルレアリスムは難しそう・・・という方は、まずは作品から溢れるユニークな発想や表現をそのまま楽しんでみられてはいかがでしょうか。写真だからこそできるユニークな表現に注目することで、私たちは、すっかり身近なものとなった「写真」を、「撮る」だけでなく、もっと自由に表現できるものとして楽しむことができるようになるでしょう。魅力的なこの世界にどうぞ足を踏み入れてみてください。

- 01. 岡上淑子 幻想 1952年
- 02. 植田正治 コンポジション 1937年
- 03. ビル・ブランド イースト・サセックス・コースト 1953年
- 04. インドリッヒ・シュティルスキー 「この頃の針の先で」より 1934-35年

01	02	03	04
----	----	----	----

01は個人蔵、02-04は東京都写真美術館蔵



1924年にアンドレ・ブルトンを中心として、活動の開幕が宣言されたシュルレアリスムは、パリをはじめ世界中に波及し、多用な表現世界を繰り広げました。大戦間に誕生したこの20世紀最大の芸術運動は、世界的な広がりを見せ、純粋な視覚表現から広告やファッションといったあらゆる領域にまで浸透し、人々の感性や表現力に革命をもたらしました。

本展は、写真とシュルレアリスムの関係に注目した国内初の大規模展です。シュルレアリスムの全貌を問い直し、「シュルレアリスムとは何か」という問いかけから、「写真とは何か」という問いかけに繋がる考察の場として、そのユニークな視覚世界を約200点でご紹介いたします。シュルレアリスム(超現実主義)とは、単なる空想のなか

①関連シンポジウム「シュルレアリスムの宇宙」

4月20日(日) 場所：1階ホール 定員：190名
第1部「シュルレアリスム美術をどう語るか」 午後2時～
パネラー：鈴木雅雄(早稲田大学教授)、林 道郎(上智大学教授)
第2部「シュルレアリスムと複製文化」 午後4時～
パネラー：塚原 史(早稲田大学教授)、千葉文夫(早稲田大学教授)

司会：神保京子
(東京都写真美術館学芸員)

③担当学芸員によるフロア・レクチャーも開催予定

会期中第2・第4全曜日午後2時より担当学芸員によるフロア・レクチャーを開催

②連続記念講演会「写真とシュルレアリスム」

講師：巖谷國士(明治学院大学教授)
4月26日(土) 場所：1階アトリエ 定員：70名
第1部「マン・レイとオブジェの発見」 午後2時～
第2部「ナジャ、バリ、痙攣的な美」 午後4時～
4月27日(日) 場所：1階アトリエ 定員：70名
第3部「1930年代のシュルレアリスム」 午後2時～
第4部「旅、超現実、日々の魔術」 午後4時～

※①②は当日10時より観覧チケットをお持ちの方に整理券を配布します ※関連コンサートも開催予定(詳細は、ホームページで発表します)

2F

2階展示室
Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

3月15日(土) ▶ 5月6日(火・祝)

知られざる鬼才 **マリオ・ジャコメツリ展**

Mario Giacomelli

□ 一般 1,000(800)円 □ 学生 800(640)円 □ 中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：朝日新聞社/カンパセーション/NADif ○共催：東京都写真美術館 ○後援：イタリア文化会館 ○協力：エキサイト株式会社

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

「私には自分の顔を愛撫する手がない(通称:若き司祭たち)」より 1961-1963年 ©Giacomelli estates

1950年代から写真を撮り始め、2000年にその生涯を閉じたイタリアの写真家マリオ・ジャコメツリは、戦後の写真界を代表する写真家の一人です。しかし、イタリア北東部のセニガリアで生まれ、ほとんどの作品をその街で撮り続けてきたため、その長い活動期間と欧米での高い評価に比べると、わが国において知られることの少ない写真家といえるでしょう。

いま、日本でもジャコメツリと同じ2000年に亡くなった植田正治や、その2年後に亡くなった緑川洋一といった地方に根を下ろして作家活動を行ったアマチュア写真家が見直されています。一地方に腰を据えた作風はイメージを素早く作り、消費しようと待ちかまえる都会的趣向にそぐわない

面がありました。それは、じっくりと凝視を求める作風だともいえます。

まとまった展覧会としては日本初となる本展では、「ホスピス」「スカンノ」「若き司祭たち」「大地」などの代表作はもちろん、最晩年のシリーズまでも網羅し、構成いたしました。ジャコメツリの作品からは、詩や絵画に近い語法を読み取られるかもしれません。そのように見えることも、また写真表現が持つ豊かさなのです。強烈なハイコントラストで「死」と「生」に立ち向かい、孤高の写真表現でリアルさを抽象したわが国では「写真界の知られざる巨人」、マリオ・ジャコメツリの世界を是非、この機会にご鑑賞ください。

◎お問い合わせ▶ カンパセーション 03-5280-9996

B1F

地下1階映像展示室
Images & Technology Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

3月29日(土) ▶ 5月18日(日)

百年の時を経て、今初めて明かされる中国皇宮最後の姿

紫禁城写真展

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円 □ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：朝日新聞社 ○共催：東京都写真美術館 ○特別協力：東京国立博物館/故宫博物院

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

「清国北京皇城写真帖」東京帝室博物館編纂 撮影:小川一真、発行所:小川一真出版部、1906年刊より 太和門、撮影:1901年 コロタイプ印刷

宇宙の中心とまでいわれ、500年に渡って栄華を極めた中国「紫禁城」。1911年までは明・清24代にわたる皇帝の住居であり、政治の舞台として世界最大の皇宮でしたが、当時は一般の人々が立ち入ることは許されず、秘密のヴェールに包まれていました。そして1900年にその姿を撮影したのが、千円札に描かれた夏目漱石の写真でも知られる日本人写真家の小川一真です。太和門、中和殿、乾清宮・・・、プラチナを使った美しく貴重なヴィンテージプリントが織り成す小川の写真を、人気中国人現代作家、侯元超が撮影した現在の故宮の写真とともにご紹介いたします。

◎お問い合わせ▶ ハローダイヤル 03-5777-8600

「清国北京皇城写真帖」東京帝室博物館編纂 撮影:小川一真、発行所:小川一真出版部、1906年刊より 太和殿内部、撮影:1901年 コロタイプ印刷



B1F

地下1階映像展示室
Images & Technology Gallery

5月24日(土) ▶ 6月8日(日)

第33回JPS展 日本写真家協会

□ 一般 700円 □ 学生・65歳以上 400円 □ 高校生以下無料

○主催：(社)日本写真家協会 ○共催：東京都写真美術館 ○後援：文化庁

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

1950年に創立した日本写真家協会では、写真文化の振興普及のため、写真愛好家を対象にフォトコンテストを開催し、今年で33回を迎えました。JPS展の出品者からは多くのプロ写真家が生まれています。

◎お問い合わせ▶ (社)日本写真家協会 03-3265-7451

B1F

地下1階映像展示室
Images & Technology Gallery

6月14日(土) ▶ 8月10日(日)

世界報道写真展2008

□ 一般 700(560)円 □ 学生 600(480)円
□ 中高生・65歳以上 500(400)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料全
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：朝日新聞社/世界報道写真財団
○共催：東京都写真美術館
○協賛：キヤノン株式会社/
キヤノンマーケティングジャパン株式会社/
ティエヌティエクスプレス株式会社

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

昨年1年間に撮影された報道写真の中から最も優れた作品を選ぶ世界報道写真コンテストの審査結果が2月8日、オランダ・アムステルダムで発表されました。51回目となる今年の応募者は過去最高の125か国、5019人にのぼり、大賞にはイギリスのティム・ヘザリントン氏がヴァニティ・フェア誌向けに撮影した作品が選ばれました。本展では事件、事故やスポーツ、アートなど10部門の入賞作品を一堂に公開いたします。

第1回 写実フォトドキュメンタリー・ワークショップ【予告】

東京都写真美術館は、21世紀のフォトドキュメンタリー、フォトジャーナリズムについて実践的な方法を考えるワークショップを開催いたします。

主催：東京都写真美術館 協力：朝日新聞社
応募期間：2008年4月より
開催日時：2008年7月11日(金)～13日(日)3日間
講師：Q.サカマキ
(世界報道写真2007「ニュースの中の人々」組写真第1位、NY在住)
外山俊樹(「アエラ」フォトエディター)
参加費：有料 参加者数：20名

※詳細は、4月以降当館ホームページをご確認ください。



【大賞】ティム・ヘザリントン 9月16日、アフガニスタンのコレンガル渓谷の掩蔽壕で休息をとる米軍兵士

2008 7.5▶▶▶ ▶▶▶12.7

アメリカは、写真初期から現在にいたるまで、特に20世紀においては世界の写真表現をリードしたといっても過言ではない国です。そして、アメリカ国籍の作家はもちろん、ヨーロッパやアジアの作家にとっても、重要な創造の「場」であり「対象」でした。

本展では、19世紀のダゲレオタイプから現代に至るまで「アメリカ」という場のなかから生み出された多種多様な表現を持つ作品を、時代によって3つのパートに分けて展示構成し、そこに「グローバル/ローカル」といったアメリカ文化がもつ重要性を見てとろうとする試みです。出品作品はすべて2万3000点余にのぼる当館コレクションから選りすぐられたものばかり。日本人にとってなじみのある作品や写真家を多数ご紹介できる機会でもあるので、写真ファンならずとも広くお楽しみいただけます。どうぞご期待ください。

7/5(sat)～8/24(sun)

第1部「19世紀から1910年代」(仮称)

8/30(sat)～10/19(sun)

第2部「1920年代から1950年代」(仮称)

10/25(sat)～12/7(sun)

第3部「1960年代から現代」(仮称)



【図左から】アレキサンダー・ガードナー マレー地、バングラデシュの難民キャンプ 1863年「南北戦争写真帖 第一巻」より、ジョージ・ヘンリー・シラー 地球儀にもたれる少女 1910年 ウォーカー・エヴァンズ 床屋、黒部の町 1936年/ボリス・ストランド ブラインド・ウーマン 1916年/ジョエル・ポーター・ワトキン 顔に顔を作る女、ニューメキシコ 1979年

ヴィジジョンズ オブ アメリカ

【会場】東京都写真美術館3階展示室
【観覧料】(予定)
一般 500(400)円/学生 400(320)円
/中高生・65歳以上 250(200)円

※ぐるっとバス利用可能



2F

2階展示室
Exhibition Gallery

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

7月5日(土) ▶ 8月17日(日)

今森光彦写真展 昆虫 4億年の旅 — 進化の森へようこそ

Insects: On the move for 400 million years

□ 一般 800(640)円 □ 学生 700(560)円
□ 中高生・65歳以上 600(480)円

()は20名以上の団体および東京都写真美術館友の会会員、上記カード会員割引料金
※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料
※第3水曜日は65歳以上無料

○主催：財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／朝日新聞社
○協賛：積水ハウス株式会社／ペンタックス株式会社／エプソン販売株式会社／富士フイルムイメージング株式会社
○協力：新潮社／クレヴィス

詳細ホームページ：<http://www.syabi.com./schedule/schedule.html>

世界の熱帯雨林、砂漠から、国内の自然環境まで、自然と人との関わりをテーマに美しい映像と親しみやすい文章で伝える今森光彦。東京都写真美術館では、いまもっとも注目されている自然写真家・今森光彦の写真展「昆虫 4億年の旅」を開催いたします。

今森は、1954年に滋賀県に生まれ、幼少期より昆虫の生態と美しさに魅了され、世界中の昆虫を求めて精力的に取材活動を続けてきました。その既成の生態写真にとられない独特な自然観に基づく作品群は、内外で高い評価を得ています。

近年では故郷である琵琶湖周辺を中心とした「里山」と

呼ばれる空間を見つめ続け、そこにおける人と自然との共生を写真に撮り続けてきました。その仕事は、作品集にとどまることなく、「映像詩・里山 命めぐる水辺」が人々の深い感動をよびおこし、世界各国で数々のグランプリを受賞しています。

本展では、彼の代表作「世界昆虫記」「昆虫記」から、新作を含む昆虫の生態を中心に約200作品を展示。昆虫に向かう彼のまなざしは、昆虫たちの背後にある自然、さらには人間の営みにまで踏み込み、自然と人間の関連性をも浮かび上がらせます。



オオアカエリトリバネアゲハと少年 フィリピン 1982年



ドラゴンヘッドオーキッド オーストラリア 1991年



キイロツノギス コスタリカ 1992年

小さな命でありながら、人間には想像もできない優れた機能と、優雅さ、美しさを兼ね備えた昆虫たち。彼らの生き方は千差万別で、奇抜な形態も、あでやかな色彩も、そして不思議な行動もそれぞれの種類にだけ備わった固有性をもっています。今森のファインダーの中で繰り広げられる生命の神秘と自然の驚異に満ちた昆虫の世界は、芸術と科学が高い次元で統一され、私たちに大きな感動を与えてくれることでしょう。



アフリカタマオシコガネ ケニア 1983年

今森 光彦 (いまもり・みつひこ)

滋賀県大津市生まれ。独学で写真を学び、80年からフリーランスとして活躍。第20回木村伊兵衛写真賞、第48回毎日出版社文化賞、第42回産経児童出版文化賞大賞などを受賞。著書に「里山物語」(新潮社)、「わたしの庭」(クレヨンハウス)など多数。

■関連イベントのお知らせ

講演会、ギャラリートーク、サイン会の開催
自然環境をテーマにした講演会、ギャラリートーク、サイン会など楽しいイベントを開催。
今森光彦写真展「里山」未来における美しい自然
会場：大丸ミュージアム・東京 会期：8月14日(木)～9月1日(月)(予定)
お問い合わせ：03-5784-2466 クレヴィス

1F | 1階ホール

Hall Cinema Information

友の会割引 | 三越カード割引 | アトレカード割引

東京都写真美術館で観る映画シリーズ

詳細ホームページ: <http://www.syabi.com./schedule/schedule.html> ※時間等変更になる場合がございます。最新の情報はホームページをご覧ください。

Film Series Vol.37 アニー・リーボヴィッツ レンズの向こうの人生

生きるように撮り、撮るように生きる
世界一有名な女流写真家・アニー・リーボヴィッツ

ジョン・レノン暗殺の数時間前に伝説の写真を撮影した女流写真家のアニー・リーボヴィッツ。ミック・ジャガー、レイ・チャールズ、ブラット・ピット、デミ・ムーア……。彼女に撮影されるなら殺人的スケジュールを変更しても構わないというセレブリティは数多い。いったいなぜ、セレブたちは彼女の前で心を裸にするのか？ その答えを探るべく、彼女のバフフルな日常に迫るドキュメンタリー映画。

ギャガ・コミュニケーションズ | annie.gyao.jp



○上映スケジュール: 3月15日(土)~4月4日(金)
○上映時間: 11:00/13:00/15:00/17:00/19:00
○料金: 一般 1,800円/学生 1,500円
中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円

Film Series Vol.38 ファヴェーラの丘

スラム街に希望のリズムを響かせる
元麻薬密売人男性のドキュメンタリー

銃声と悲鳴が子守唄代わりのスラム街、リオデジャネイロの通称“ファヴェーラ”。絶望的で息の詰まるようなこの街で、家族や多くの友人を失った元麻薬密売人の男は「どうすれば暴力が止められるか」を考え、「誰の胸にも響く音楽」に一筋の光を見出した。やがて彼はギャングを夢見る子どもたちを救うため、銃ではなく、音楽やダンスを武器に希望のリズムを響かせていく。

ナウオンメディア株式会社 | 03-3406-1812 | www.favela-movie.com



○上映スケジュール: 4月5日(土)~4/20(日)は19:00の回のみ上映
○上映時間: 13:00/15:00/17:00/19:00
○料金: 一般 1,800円/学生 1,500円
中学生以下・シニア(60歳以上) 1,000円
モーニングロードショー「バレー・リュス 踊る歌び、生きる歌び」
※午前1回のみの上映です ファントム・フィルム 03-5774-0016
○上映スケジュール: 4月5日(土)~ ○上映時間: 10:20~

ミュージアムショップ「ナディッフ バイテン」 1F



◎お問い合わせ:
「ナディッフ バイテン」
直通 03-3280-3279
www.syabi.com/shop/shop.html



Tenugui
ナディッフ バイテンの名にちなみ、昔ながらの江戸染めの手法で「テン」の手ぬぐいを作りました。黄色の濃淡の染が明るい印象で、贈りものにも喜ばれます。

「テン」手ぬぐい ¥1,050(税込)

カフェ「シャンブル クレール〜明るい部屋〜」 1F 2F



◎お問い合わせ:
カフェ「シャンブル クレール」
直通 03-5798-2218
www.syabi.com/cafe/cafe.html



Cake
香り高い宇治抹茶にホワイトチョコをあわせました。黒豆の香ばしい風味が程良いアクセントの大人のスイーツです。

抹茶のフォンダンショコラ ¥550(税込)

維持会員 Membership

東京都写真美術館の活動をご支援いただくため、次の企業・団体に維持会員としてご入会いただきました。
※詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.syabi.com/member/member.html>

- 特別維持会員
株式会社アイデム
株式会社キタムラ
キヤノン株式会社
株式会社資生堂
東京電力株式会社
凸版印刷株式会社
株式会社ニコン
株式会社リコー
- 維持会員
株式会社S&S BBDO
株式会社アサツディ・ケイ
旭化成株式会社
朝日新聞社
朝日生命保険相互会社
アサヒビール株式会社
朝日放送株式会社
株式会社アシェット婦人画報社
アップルジャパン株式会社
アデコ株式会社
株式会社アマナ
イー・キャンティ株式会社
株式会社岩波書店
エスエス製薬株式会社
株式会社NHKアート
株式会社NHKエデュケーション
株式会社NHKエンタープライズ
株式会社NHKプロモーション
株式会社NTTデータ
株式会社NTTコム
NTT都市開発株式会社
株式会社エフエム東京
WJグループ株式会社WJイン・ジャパン 加ハニ
エルメスジャパン株式会社
株式会社大塚商会
株式会社大林組
オムロン株式会社
オリックス株式会社
オリバス株式会社
株式会社オンワード豊山
科研製薬株式会社
カシオ計算機株式会社
鹿島建設株式会社
株式会社角川書店
カトレック株式会社
カルピス株式会社
キッコーマン株式会社
株式会社紀伊國屋書店
キハラ株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
株式会社キューコミュニケーションズ
- 共同印刷株式会社
社団法人共同通信社
協和館醸工業株式会社
キリンホールディングス株式会社
株式会社光文社
株式会社国書刊行会
株式会社コスモスインターナショナル
株式会社コーセー
コダック株式会社
コニカミノルタホールディングス株式会社
株式会社ザ・アール
サッポロホールディングス株式会社
産経新聞社
サントリー株式会社
株式会社サンロウズイ
株式会社ジェイアール東日本企画
ジェイティービー印刷株式会社
株式会社シグマ
株式会社実業之日本社
清水建設株式会社
株式会社写真弘社
シャネル株式会社
株式会社集英社
株式会社主婦と生活社
株式会社主婦の友社
瞬報社写真印刷株式会社
株式会社小学館
松竹株式会社
信越化学工業株式会社
株式会社新潟社
株式会社スタジオリス
株式会社スタジオブリ
住友化学株式会社
株式会社生活の友社
セイコーホールディングス株式会社
株式会社青春出版社
株式会社世界文化社
積水ハウス株式会社
株式会社絶対空間
セントラル警備保障株式会社
全日本空輸株式会社
ソニー株式会社
第一建設サービス株式会社
第一三共株式会社
第一法規株式会社
大成建設株式会社
大日本印刷株式会社
株式会社竹中工務店
株式会社タムロン
株式会社丹青社
- 株式会社中央公論新社
中外製薬株式会社
株式会社ディー・ビー・オー
株式会社テー・オー・ダブリュ
株式会社テレビ朝日
株式会社テレビ東京
電源開発株式会社
株式会社電通
東亜建設工業株式会社
東京ガス株式会社
東京急行電鉄株式会社
東京工芸大学
東京新聞・中日新聞社
株式会社東京スタジオ
東京総合写真専門学校
東京テアトル株式会社
東京都競馬株式会社
株式会社東京ドーム
株式会社東京美術倶楽部
株式会社東京放送
東京エロロリアンテレビジョン株式会社
株式会社東芝
東宝株式会社
株式会社東北新社
株式会社徳間書店
図書印刷株式会社
戸田建設株式会社
トヨタ自動車株式会社
日外アソシエーツ株式会社
日油株式会社
日産自動車株式会社
日本オラル株式会社
株式会社日本カメラ社
日本経済新聞社
日本興亜損害保険株式会社
株式会社日本広告社
社団法人日本広告写真家協会
社団法人日本写真協会
社団法人日本写真文化協会
日本たばこ産業株式会社
日本テレビ放送網株式会社
日本ハム株式会社
日本ヒューレット・パッカド株式会社
株式会社ニッポン放送
日本レコードマネジメント株式会社
日本ロレックス株式会社
- 株式会社博報堂
株式会社林原生物化学研究所
びあ株式会社
東川町
東日本旅客鉄道株式会社
光写真印刷株式会社
株式会社ビックカメラ
ビノキ新薬株式会社
株式会社ファーストリテイリング
株式会社ファンケル
富国生命保険相互会社
富士重工業株式会社(スバル)
富士ゼロックス株式会社
株式会社フジテレビジョン
富士フィルム株式会社
株式会社扶桑社
株式会社ブラザークリエイト
株式会社ブリヂストン
株式会社プリンスホテル
株式会社フレームマン
株式会社文藝春秋
株式会社ベネッセコーポレーション
ベントックス株式会社
株式会社ホテルオークラ
株式会社堀内カラー
本田技研工業株式会社
毎日新聞社
株式会社マガジンハウス
松下電器産業株式会社
マミヤ・デジタル・イメージング株式会社
丸善株式会社
三井倉庫株式会社
三井不動産株式会社
株式会社三越
三菱地所株式会社
武蔵大学
森ビル株式会社
モルガン・スタンレー証券株式会社
モンブラン ジャパン株式会社
株式会社ヤナセ
ヤマトロジスティクス株式会社
ユニバーサル・ジャパン株式会社
横河電機株式会社
株式会社吉野工業所
株式会社ヨコバシカメラ
読売新聞社
ライオン株式会社
ライカカメラジャパン株式会社
株式会社ワコール

(平成20年1月現在・五十音順)

友の会 Supporter

東京都写真美術館では、随時新規会員の募集をしています。展覧会のご招待・割引、上映映画の割引、写真美術館ニュースeyesの送付をはじめ、たくさんの特典をご用意している他、関連施設での割引もございます。開館時間中(10:00~18:00)に当館1階チケットカウンター横「友の会カウンター」にてご入会いただけます。皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

年会費	
個人会員	2,000円
家族会員同伴者1名まで	3,000円
シルバー会員(65歳以上の方)	1,000円

- 受付は当館1階チケットカウンター横の「友の会カウンター」のみとなっております。
- 会員証の有効期限は、翌年の同月末日までです。
※詳細は当美術館までお問い合わせください。
TEL:03-3280-0099

友の会特典	特典内容
収蔵展・映像展	無料 ※会期中は何度でもご覧いただけます ※家族会員の方は、同伴者1名まで無料
共催展・企画展	割引 ※御利用いただけない場合もございます
ミュージアムショップ	5%引き ※一部商品は除きます
カフェ	ブレンドコーヒー、ダーズリン紅茶を200円引き ※詳細はお尋ねください
その他	○写真NEWS「eyes」送付 ○1階ホール(実験劇場)の割引 ○ロコ洗谷店で1,000円以上のお買上につき5%割引(洋書・洋雑誌)など